１２月号

いずみこども園だより

ホームページが
リニュアル
します

令和７年　１１月２８日
千代田区立いずみこども園
園　長　　穴　原　江　美

【教育目標】　元気な子ども　やさしい子ども　☆考える子ども

四季の自然が育む子どもたちの学び

園長　穴原　江美

和泉公園や校庭の桜の葉が鮮やかに色づき、冬へ向かう季節の訪れを感じます。近年は、夏の暑さが長く続き、秋が短くなってきているようです。今年の新語・流行語でも『二季』という言葉がノミネートされ、日本の四季が失われるのではないかとさえ思われます。天気のよい日には戸外に出て遊び、この時期の自然を十分に味わってほしいと思います。

11月に、幼児クラスの3学年で猿江恩賜公園に遠足に行きました。秋空の下、子どもたちは秋の自然にたっぷりと触れながら、秋の公園の散策を楽しみました。落ち葉が重なる森の中では、「この葉っぱの色、きれい！」「これは何の実かな？」と、色や形の違いに気づきながら、落ち葉や実を拾い集める姿がありました。

木々のトンネルのようになっている小道を進むときには、ちょっとした探検気分です。隊長（担任）を先頭に、「この先は何があるかな？」とワクワクし、「歩こう♪歩こう♪」とみんなで元気に歌を口ずさみながら探検隊が進んでいきます。ふかふかの落ち葉の感触を楽しみ、日差しが差し込む中でキラキラと舞う落ち葉のシャワーにも大興奮の子どもたちでした。

広い芝生では、友達と一緒に思い切り体を動かしながら、空の広さや風の心地よさを全身で感じていました。子どもたちにとっては、自然そのものが遊びの素材です。どんぐりを集めて見せ合ったり、木陰の道を走り抜けたり、草の感触を確かめたり、日の光を感じたり、遊びの一つ一つが、自然と向き合い、心と体を通した学びになっています。

自然に触れることで、子どもたちの感性は大きく広がります。季節の移ろいに気付く目、友達と同じものを見て「きれいだね」と共感する心、自分から関わり動き出す意欲、そうした成長の姿が、自然との関わりの中で見られています。

乳児クラスの子どもたちは、和泉公園や園周りの散歩に出かけると、お土産（落ち葉や実）を持ってきてくれます。登園時に拾ってきてくれる子どももいます。「この葉っぱほしいな」「だれかにあげたいな」という気持ちは、思いの表出や人との関わりにもつながります。

自然は、子どもたちの豊かな成長を支える学びの宝庫です。二季と言われる時節だからこそ、四季折々の自然に触れる体験を大切にし、子どもたちが自然の中で思い切り遊び、感じ、学ぶ時間を大切にしていきたいものです。

いよいよ師走、今年もあと1か月です。大人の私たちも、ふと立ち止まって公園の木々や街路樹の色づきに目を止め、豊かな心で1年を締めくくりたいものですね。